



東京理科大学報

TUS *Journal*

vol. 187

メタセコイアの森など、自然豊かな水元公園（葛飾区）

物華天宝 降水確率で傘を持って出るか決めていますか？

天気予報で雨の確率が何%から傘を持って出るべきか？先ごろ、万物に質量を与えるヒッグス粒子が見つかったというニュースが流れた。新粒子発見のためにスイスにある加速器で粒子を衝突させる実験が続けられている。ヒッグス粒子ならその質量は125から126 GeV（ギガ電子ボルト）ぐらいだ。今回の新粒子の質量がその範囲である確率は99.99995%または99.99998%だったと発表された。この場合に確率で表される理由は、粒子の質量には統計的に

ばらつきがあるため、得られた測定値は偶然の結果になる。

東北地方では、大きな津波を引き起こす地震は、ほぼ1000年間隔で起きていた。2011年の東日本大地震は、869年の貞観地震から約1150年目に発生したことになる。太平洋側の海底が東日本がのっている陸地の下へゆっくりすり込み、大きなゆがみをため込んで、それを放出して東日本大地震を起こした。

地震の起こりやすさを1000年に1度と表現すると、宝くじのように感じるの

で、大津波の発生を忘れて、海沿いの平地の住みやすさを優先してしまう。地震発生理由を考えると1000年間に99%の確率という表現の方が、もっと用心していたかもしれない。（冒頭の質問の答え、わたしは職場に置き傘をしている）

（基礎工学部電子応用工学科教授 蟹江 壽）

Headline

- 02 オープンキャンパス2012
- 03 補職人事／名誉教授称号授与
- 04 葛飾Walk!!「葛飾の伝統工芸」
- 05 高橋陽一先生インタビュー
- 06 Event
／山口東京理科大学ニュース
- 07 寄付者芳名
／諏訪東京理科大学ニュース
- 08 ホームカミングデーを開催します

オープン キャンパス 2012

8月7日(火)野田キャンパス、
8日(水)神楽坂キャンパスで
オープンキャンパスを
開催しました。



当日は学科説明会や模擬講義、大学説明会が開催されたほか、各キャンパスとも多くの研究室が開放され、模擬実験や研究室見学ツアーが催されました。猛暑の中、来場者は神楽坂、野田キャンパス合計で1万人を超え、多くの高校生や保護者の方々に本学に足を運んでいただきました。特に神楽坂キャンパスでは昨年の来場者数から約2,000人増加して約7,500人の来場者数を記録しました。

神楽坂キャンパスでは、藤嶋昭学長による特別講演「教育も研究も楽しく活発に」が行われ、満員となった

教室では高校生らが目を輝かせて講演を聞いていました。各学科の模擬講義では大学の授業さながらに、熱心にメモを取る高校生の姿も見られました。

一方、野田キャンパスでは、数多くの研究室・研究施設が開放され、来場者は本学の最先端技術を体験することができました。その他、教職員および学生の個別相談やキャンパスツアー、巡回バスを実施することで、来場者はより身近に野田キャンパスでの大学生活を体感することができました。

猛暑の中、熱中症が心配されましたが、事故なく無

事にオープンキャンパスを終了することができました。

なお、今年度は昨年に引き続き、関東圏以外にも広く本学の魅力をPRすべく「東京理科大学進学説明会」を10月6日(土)に広島、10月20日(土)に福岡、10月27日(土)に名古屋で開催します。また、神楽坂・野田キャンパスでは11月23日(金)～25日(日)の学園祭(理大祭)期間中に進学相談会を開催するほか、久喜キャンパスでも11月3日(土)に学園祭とオープンキャンパスを同時開催します。

近代科学
資料館
企画展

「秋山仁の 算数・数学 おもしろランド —算数・数学を 体験しよう—」

近代科学資料館で7月20日(金)～8月9日(木)、8月24日(金)～9月8日(土)の計27日間、企画展「秋山仁の算数・数学おもしろランド—算数・数学を体験しよう—」が開催され、期間中4,514人もの来場がありました。

この企画展は算数や数学の不思議に気付き、実験やモノづくりを通して創意や工夫の面白さを体験しながら学んでもらうことを目的としたもので、三平方の定理や円の面積、球の体積を説明する大型教具などが展示されました。期間中募集した「理科の歌コーナー」には、「公式をひたすら覚えたあの頃に 出会いたかった秋山先生」「楽しい サイクロイドにビリヤード いろいろ学ぶ数学展」などの感想が寄せられました。また、実験を体験した女子生徒は「難しかった公式も、実際にモデルを使って体験することで、なるほどと納得することができました」と感想を話してくれました。

特に、8月8日(水)に行われた神楽坂キャンパスのオープンキャンパスでは、特別講演・体験教室が行われ、本学理数教育研究センター長の秋山仁教授による「目からウロコの数学ゼミ」に参加者は熱心に耳を傾けていました。



企画展の様子

進む葛飾キャンパスの建設工事

来年4月に開設する葛飾キャンパスは現在急ピッチで建設工事が進められており、徐々にその全容が現れてきています。今回は葛飾キャンパス建設工事の進捗状況について報告します。

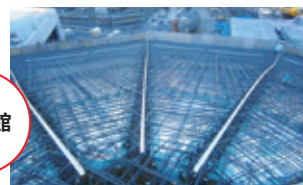


研究機能の拠点となる研究棟は現在、9～11階の鉄骨(柱)の建方を完了し、2階～4階で各種内装工事を進めています。

葛飾キャンパスイメージ図

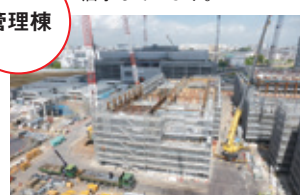


図書館



図書館はホール大屋根のコンクリート打設を完了し、外装タイルやサッシ、内装や設備工事に着手しています。

管理棟



食堂や事務室が入る管理棟は4階の建物の骨組みの施工に着手しています。



講義棟

教室やターミナル室が入る教育機能の拠点となる講義棟は7階床までコンクリートを流し込む打設工事を完了し、間仕切りなどの内装工事にも着手しています。

実験棟は4階の建物の骨組みの施工を行っており、1階のサッシ工事にも着手しています。

体育館



体育館棟は大アリーナの屋根工事を行っており、外構についてはオイルタンクの基礎工事を行っています。

※本件については予定であり、変更される可能性があります。

経営学部の一部移転について

本学は、経営学部のより一層の教育研究の活性化を目指し、平成28年(2016年)4月から経営学部のキャンパスを一部移転します。1年次は現行の久喜キャンパス(埼玉県久喜市)、2～4年次および大学院経営学研究科は神楽坂キャンパス(東京都新宿区)で学修することとなります。神楽坂キャンパスのある飯田橋は都内の中心部に位置し、経済活動も盛んであるため、経営学を学ぶ点で効果的な立地となります。また、経営学部では理工系総合大学の強みを生かし、

理学と工学の知識に基づき計量的・実証的な思考を養うカリキュラムを用意していますが、今回の移転で、経営学部の学生が理工系学部の学生と同じキャンパスで学ぶことにより、経営学部および既存学部双方の学生の教養力向上につながることも期待されます。久喜キャンパスには1年次の学生のみが在籍することとなりますが、長万部キャンパス同様、先輩のいない環境で学生自身に自立心を持たせることで、教育効果の向上を目指していきます。

People

2012 AUTUMN

補職人事

平成24年10月1日付で補職等の異動が発令され、薬学部学部長・薬学研究科研究科長に牧野公子教授、工学部第二学部学部長に河野守教授、理工学部学部長に北村春幸教授、経営学部学部長・経営学研究科研究科長に高橋悟教授、理工学研究科研究科長に森俊介教授が新たに就任しました。

10月1日現在の主な補職等は次のとおりです。

■学部

【理学部第一部】学部長	矢部 博 教授(任期中)
【理学部第二部】学部長	吉岡 朗 教授(任期中)
【薬学部】学部長	牧野 公子 教授(新任)
【工学部第一部】学部長	半谷 精一郎 教授(再任)
【工学部第二部】学部長	河野 守 教授(新任)
【理工学部】学部長	北村 春幸 教授(新任)
【基礎工学部】学部長	友岡 康弘 教授(任期中)
【経営学部】学部長	高橋 悟 教授(新任)

■大学院

【理学研究科】研究科長	矢部 博 教授(任期中)
【総合化学研究科】研究科長	築山 光一 教授(任期中)
【科学教育研究科】研究科長	小川 正賢 教授(任期中)
【薬学研究科】研究科長	牧野 公子 教授(新任)
【工学研究科】研究科長	半谷 精一郎 教授(再任)
【理工学研究科】研究科長	森 俊介 教授(新任)
【基礎工学研究科】研究科長	友岡 康弘 教授(任期中)
【経営学研究科】研究科長	高橋 悟 教授(新任)
【生命科学研究科】研究科長	安部 良 教授(任期中)
【インベーション研究科】研究科長	伊丹 敬之 教授(再任)
【国際火災科学研究科】研究科長	辻本 誠 教授(任期中)

■その他の補職等

【長万部教養部長】	藤井 志郎 教授(任期中)
【学生部】学生部長	理一 小向得 優 教授(再任)
神楽坂地区学生部長	理二 佐々木 健夫 教授(新任)
野田地区学生部長	理工 伊藤 稔教授(任期中)
久喜地区学生部長	経営 白石 安男 教授(新任)
【図書館】図書館長	植木 正彬 副学長(任期中)
神楽坂図書館長	理一 江川 嘉美 教授(任期中)
野田図書館長	理工 春山 修身 教授(任期中)
久喜図書館長	経営 平木 多賀人 教授(新任)
長万部図書館長	基工 菅原 聖喜 教授(任期中)
【総合研究機構】機構長	福山 秀敏 副学長(任期中)
【生命医科学研究所】所長	生命 安部 良 教授(任期中)
【総合教育機構】機構長	植木 正彬 副学長(任期中)

TUSフォーラム2012を開催します

10月30日(火)に、飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで「TUSフォーラム2012」を開催します。「産業は学問の道場なり」と題して、「東京理科大学ならではの」研究成果の紹介、さらに「科学・技術」界リーダーによる講演を通して、産官学交流の場を提供します。参加費無料です。一般の方もご参加いただけますので、興味のある方はぜひお申し込みください。本学HPトップページの「TUSフォーラム2012」から申込書をダウンロードの上、右記連絡先まで。



【連絡先】
東京理科大学学務部庶務課
FAX：03-5228-8123
e-mail：shomu@admin.tus.ac.jp

名誉教授称号授与

東京理科大学は、長年にわたり本学教育・研究の発展に尽力され、多くの功績を挙げられた5人の先生方に名誉教授の称号を授与しました。

【平成24年6月15日】

原文雄 (はら・ふみお) 先生 は、昭和46年に工学部第一部機械工学科に助教として着任し、昭和58年に教授となり、学科主任、研究科幹事、工学部第一部学部長、工学研究科長、計算科学フロンティア研究センター長、情報科学教育研究機構長、常務理事、執行役等を歴任しました。

研究分野は機械システムダイナミクスであり、特に流体関連振動、耐震設計解析および顔口ロボットと人とのインタラクションの研究に貢献しました。気液二相流による水平管の振動の研究成果により日本機械学会論文賞を、顔口ロボットの開発研究で日本ロボット学会技術賞を、また米国機械学会における学術発展と学会活動への貢献によりASME PVPメダルを受賞しました。



原先生

本阿彌眞治 (ほんあみ・しんじ) 先生 は、昭和49年に工学部第一部機械工学科に講師として着任後、昭和62年に教授となり、学科主任、研究科幹事、学生部委員会委員、工学部第一部学部長、工学研究科長等を歴任しました。専門分野は熱流体工学であり、特に、ガスタービンエンジン空気力学、剥離流れ現象の解明とデバイス開発を含む制御システムを研究しました。また、学会活動において、機械学会副会長、ガスタービン学会会長を歴任し、併せて、大学基準協会大学評価委員や日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査活動を通して社会貢献しました。



本阿彌先生

瀬戸裕之 (せと・ひろゆき) 先生 は、理工学部応用生物科学科創設翌年の昭和52年に講師として着任し、平成元年に教授となり、学科主任、研究科幹事、理工学部学部長、学長補佐、副学長等を歴任しました。

主な研究分野は、肺炎双球菌を対象とした外来遺伝子導入機構、遺伝的組換え、形質転換、コリン仲介オートリシンなどであり、分子生物学や遺伝子工学の黎明期からその後の膨大な発展に至る基礎を築いたものとして国際的に高く評価されています。



瀬戸先生

奥田宗幸 (おくだ・むねゆき) 先生 は、昭和49年に理工学部建築学科に助手として着任し、平成4年に教授となり、学科幹事、研究科幹事、学生部委員会委員等を歴任しました。

研究分野は、建築計画学における設計方法と人間工学であり、CADなどを活用した設計支援システム、可動床をもつ住宅、工業化住宅、居住空間としての地下室活用方法などの開発や提案をしてきました。それら研究の一部は事典やハンドブックとしてまとめられ、広く活用されているばかりでなく、設計競技への参加などを通じて設計教育にも熱心に取り組み、多数の著名な建築家を育てています。



奥田先生

井上洋 (いのうえ・ひろし) 先生 は、昭和44年に理工学部経営工学科に助手として着任し、その5年後、米国に渡りph.Dを取得して帰国、昭和62年に基礎工学部の新設とともに助教として長万部キャンパスに勤務しました。平成2年に教授となり、平成5年に経営学部に移り、経営学部長、経営学研究科長、久喜図書館長等を歴任しました。

専門分野は数理統計学であり、大数の法則など収束定理の構築に専念し、多くの論文を国際会議や国際ジャーナルに発表しました。経営学部に移ってからは、金融工学の分野にてオプション理論を中心とした研究に打ち込み、特に最近の国内外における金融に関連する諸問題の数理モデル化に力を注ぎ、今なお積極的に活動しています。



井上先生



Prize

受賞一覧

東京理科大学生の各種論文・研究発表等の受賞一覧 (2012年05月～ 2012年07月)

受賞者 (所属・学年は受賞または応募時)	受賞名	大会・学会名	受賞テーマ等	受賞日
梅崎 優真 総化研・総化・博3	若手講演賞	第63回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	アクチノラクトマイシン全異性体の合成ならびに修正構造体の不斉全合成	2012/05/19
三瓶 太朗 総化研・総化・修1			3-シアノアルキルマグネシウムカルベノイドの4-Exo-Dig型環化反応によるシクロブタノン類の合成	
小手 俊明 薬学研・薬科学・修1			抗菌性物質Pyrocidine Aの全合成研究	
長岡 潤一郎 工二・建築・4	銅賞	JIA卒業設計コンクール	なつかしい未来 ― 運河がつなぐ深川の記憶	2012/06/02
和藤 大鑑 総化研・総化・博1	第8回GSCポスター賞	新化学技術推進協会	ナノロッド形状を有するKMM'TasO ₁₅ (M and M' =Ca,Sr,and Ba) 光触媒を用いた水を電子源とするCO ₂ 還元反応	2012/06/13
新井 皓也 基礎工研・材料工・博1			NaCo ₂ O ₄ ・Mg ₂ Si π型熱電発電モジュールの開発	2012/06/13
権代 統志 総化研・総化・博3	日本文化財科学会第六回ポスター賞	日本文化財科学会第29回大会	可搬型蛍光X線分析装置を用いた国内美術館所蔵のイラン製イスラーム陶器における産地特性化	2012/06/24
遠山 純史 理工研・機械工・修1	新進賞	平成24年度保守検査ミニシンポジウム	コンパクトFBG振動検出システムによるAE計測	2012/06/29
Edelweijls A.P. 理工研・経営工・修2	ベスト論文賞	The 3rd ICTOM 2012国際会議	Comparison of Environment Impact between Conventional and Cold Chain Management System in Paprika Distribution Process	2012/07/05
島村 佳典 総化研・総化・修2	ポスター賞	プラズマ分光分析研究会2012つくばセミナー	LA-ICP-MS,HR-ICP-MSを用いた研究例の紹介	2012/07/05
寺部 宏基 理学研・物理・博2	若手優秀講演賞	第49回アイソトープ・放射線研究発表会	Naを蒸着した多結晶タングステンから放出したボジトロニウムの飛行時間測定	2012/07/11
坂元 敬 工学研・電気工・修2	優秀論文賞	3次元画像コンファレンス2011	焦点ぼけ画像群における周波数の偏りを考慮した光線空間の高効率圧縮の検討	2012/07/12
榎村 剛 理工研・建築・修2	優秀修士論文賞	日本建築学会	高強度コンクリートの爆裂時の水分挙動に関する研究	2012/07/13
河合 亘 基礎工研・材料工・修2	エクセレントポスター賞	高分子学会関西支部第58回高分子研究発表会	交流電場印加による生分解性ハイドロゲルの電気泳動接着	2012/07/13
竹田 和行 工学研・建築・修2	小嶋一浩賞	東京都美術館企画展「Arts&Life：生きるための家」展	吹き抜けのある共同生活	2012/07/15
高橋 涼香 薬学研・薬科学・修1	ポスター賞	ASIATOX-VI (第6回アジア毒性学会国際会議)	Cadmium selectively and strongly induces the expression of ZIP8 in vascular endothelial cellsProcess	2012/07/20

葛飾

Walk!!

Katsushika Campus Area

Vol.9

江戸を
今に伝える
葛飾の
伝統工芸

葛飾区は、伝統工芸の職人さんが多く住む街でもあります。江戸の粋を今に伝える、葛飾の伝統工芸を訪ねてみました。



79歳で現役の大ベテラン、三田工場長



現場では、女性の職人も活躍している。



代表取締役の清水三千代さん

江戸切子



女性職人のデザインから生まれた器。

切子としては珍しい、白と黒のガラス。

清水硝子



松竹梅をかたどったガラス。

技を磨き続ける
硝子工芸の世界

鋭い直線で刻まれた模様で、美しい光を反射する日本伝統の硝子工芸、江戸切子。江戸時代末期に生まれたこの工法は、幕末から明治にかけてさらに進化を遂げ、現在の姿となりました。鮮やかな硝子を用いた器は、多くの人を魅了します。その技術を現代に受け継ぎ、創業89年を迎える「清水硝子」を訪れました。

社長の清水三千代さんは、祖父である清水直次郎さんが開いたこの工房を受け継ぐ三代目。「江戸切子の魅力の一つは、その繊細さにあると思います。この工房では全てが手作業で行われており、多くの方々に愛されてきました。飾って楽しむのではなく、日常生活の中で活用して、愛用していただきたいと思っています」と、清水さん。今年オープンしたスカイツリーのエレベーター内にも、清水硝子の美しい切子が日本の伝統美を表現するために使われています。

工場長を務める葛飾区伝統工芸士の三田隆三さんはこの道60年の大ベテラン。鮮やかな手さばきで、素早く美しいラインを刻んでいきます。「長いこと仕事をしていても『これでいいんだ』と思う日はありません。日々、修業です」と語ってくれました。現在、この工房には8人の職人がいて、その中には、若い女性の職人が3人います。「彼女たちがデザインしたものを見て、三田工場長がまた新たな挑戦をする。互いに刺激し合って、活気が生まれていくのが楽しみです」と、清水さん。伝統の中にも新しい挑戦を忘れない心を教えてくれました。

株式会社 清水硝子

●東京都葛飾区堀切4-64-7

☎03-3690-1205 <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~kirikoya/top.htm>江戸
木彫刻

木彫のモチーフは、恵比寿や龍など、縁起物が好まれる

工房 福島木彫刻所

熟練の技から生み出される
木彫の生命

寺院や社殿を飾る天駆ける龍や、勇ましい獅子。これらの木彫の技術は、古くは仏教伝来とともに日本に入ってきたと言われています。その伝統を今に伝える福島政山さん。福島さんの作品は、成田山新勝寺をはじめ、日本中の神社に見ることができます。また、英国ロンドンにあるキューガーデンの勅使門に獅子を彫り、世界的にも認められています。

少年時代から江戸木彫を始め、60年近く続けてきた福島さん。数百年の彫刻刀を使い分けながら彫っていくその作品は、まるで生きているような活力に溢れ、どこか優しい顔立ちをしています。「龍にしても、仏像や七福神にしても、どれも本来は架空のもの。でも、彫っているうちに、どこか自分や家族に似てしまうものだね」と福島さん。現在は地元の子どもたちに伝統工芸についての授業も行っており、「子どもたちからの感想文をもらって読むのが楽しいんです」と、まるで恵比寿さんのような笑顔で話してくれました。

工房 福島木彫刻所

●東京都葛飾区西新小岩5-21-3

☎03-3692-3798

<http://www.dentosangyokan.com/fukushima/profile.htm>

葛飾区の伝統産業職人会の会長も務める福島政山さん



龍をモチーフにした欄間を作る作業中。



印伝



ハンドバッグや財布など、さまざまな商品がある

印伝矢部

色とパターンで織りなす、
伝統の技

色とりどりに染め上げられた鹿の革に、花や動物、吉祥紋などを漆で染め付けていく伝統工芸、印伝。古くはよろいの胸板、かぶとの吹き返しなどにも使われてきました。その伝統工芸を今に伝えている印伝矢部は、東京で唯一の印伝の工房です。代表であり、伝統工芸士である矢部恵延さんは、大正13年に創業したこの工房の二代目にあたります。「漆は、英語ではJAPANと呼ばれる日本独自のもの。その扱いは難しく、まるで生き物のよう。季節や日によって変わる湿度に気を配りながら染めていきます」と矢部さん。

鹿の革の色、漆の色、そして模様の型紙の組み合わせは、数千通り。一つ一つ丁寧な手作業によって染め付けられていきます。ハンドバッグや名刺入れ、がま口などさまざまな商品は、伝統工芸の展示会でも人気のブースになっています。矢部さんは、「若い大学生の方たちにも関心を持ってもらい、新しいデザインにも挑戦していきたいです」と語ってくれました。

有限会社 印伝矢部

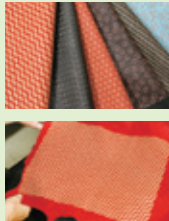
●東京都葛飾区立石3-21-7

☎03-3695-6460

http://www.inden-yabe.com/frm_about.htm

代表取締役の矢部恵延さん

革の色、漆の色から、多種多様な印伝が生まれる



市松人形



松菊

一つ一つ手仕事で作られる
思いのこもった市松人形

市松人形や雛人形、武者人形などは、子どもたちの成長を祝う節句には欠かせません。その昔、市松人形は、着せ替え人形として子どもたちの遊び道具として使われ、和裁や着付けも人形遊びを通して学んだと言われています。

昔ながらの伝統を守りながらその人形を作り続けているのが、松菊の伝統工芸士、菊地之夫さん。大量生産される人形が増えるなか、一体一体を精魂込めて作っています。菊地さんの丁寧な作業の様子から、人形をまるで本当の子どものように慈しんで作っていることが感じられます。市松人形などの体には、それぞれの店の銘が記されていることがあるそう。「たとえ銘が見えなくても、うちの人形はすぐに分かります。どこか家族の面影があるものです」と、菊地さん。「数は少なくとも、喜んでいただける人形をお届けしたいと思っています」という菊地さんの元には、日本国内はもちろん、海外からもわざわざ工房を訪ね、人形を作ってほしいというお客さんもいらっしゃるとか。

松菊

●東京都葛飾区青戸3-41-3

☎03-3602-1452

<http://www.ichimatsu.com/>

伝統工芸士の菊地之夫さん

市松人形の髪は人毛を使用し、丁寧に作業をする



Special
Interview「キャプテン翼」の生みの親
高橋陽一さん
インタビュー

1981年から週刊少年ジャンプで連載がスタートし、日本のサッカー人気を飛躍的に高めた『キャプテン翼』。その作者である高橋陽一さんに、サッカーに対する思いと、生まれ育った葛飾の思い出について伺いました。



©高橋陽一／集英社

——東京理科大学葛飾キャンパスが2013年4月にオープンすることについて、どう思われますか？

高橋 大学生が葛飾に来てくれて、街全体が活気付くのはうれしいことですね。最近では書店の数も少なくなりつつありましたが、学生さんが増えれば、書店も増えるかもしれない……と、期待しているんですよ。

——高橋さんは生まれも育ちも葛飾でいらっしゃるそうですが、どんな少年時代を過ごしていらっしゃいましたか？

高橋 僕は実は野球少年だったんです。小学生時代から、高校まで野球をしていました。すぐその荒川の河川敷ではしょっちゅう友達と野球をして遊んでいました。

——野球少年だった高橋さんが、『キャプテン翼』でサッカーを描こうと思われたきっかけは何でしょうか？

高橋 1978年に開催されたサッカーワールドカップアルゼンチン大会を、高校生の時にテレビで見たんです。そして「なんて面白いんだろう」と、サッカーの魅力に取り付かれてしまいました。日本では当時、野球の方がメジャーで、自分も野球をしていたのですが、調べてみると世界ではサッカーの方がずっと人気のあるスポーツだった。これはぜひ描いてみたいと思って描き始めました。連載当時はみんな「ワールドカップ」なんていう大会が存在することも知らなかったんじゃないかな。でも、サッカーを知らなかった子どもたちにも愛されて、ここまで続いてきたんです。僕が感じたサッカーの魅力が伝えられてよかったです。

——そうして生まれた『キャプテン翼』は、現在、第一線で活躍している香川選手や長友選手、本田選手など、たくさんのファンがいらっしゃいます。お会いになれた選手も多いのでは？

高橋 そうですね。たくさんの選手とじかにお話しさせていただきました。若い選手たちが、『キャプテン翼』を読んでいて……そして、翼と同じように、日本のみならず世界で活躍している姿を見て、頼もしく思っています。連載当初からすると、日本のサッカーは本当に強くなりました。

——今年のオリンピックで、なでしこジャパンが銀メダル、男子サッカーがベスト4入りを果たしたのも、この『キャプテン翼』の影響があるのでは？

高橋 そう言っていただけるのはうれしいですね。以前から僕は「いつか誰かが、ワールドカップ優勝という翼の夢を実現してくれるのではないか」と思っていたのですが、なでしこジャパンはまさに翼の夢をかなえてくれました。そして今回のオリンピックでは銀メダルという快挙です。翼の夢をかなえてくれるのが、女子選手だったというのは意外ですが、こんな風にブームになる以前からなでしこの応援をしてきたので、感無量ですね。男子サッカーもオリンピック4位という結果を残してくれました。女子も北京で4位を取り、今回のロンドンで銀メダルですから、男子も次の大会ではさらに上を目指していけるんじゃないかな、と期待しています。サッカーがこのまま一時的なブームで終わらずに、次世代がしっかり育っていってくれば、ワールドカップ、オリンピックで世界一になれると思っていますよ。

——ロナウジーニョやデルピエロなど、海外の一流選手たちの中にも、『キャプテン翼』ファンがたくさんいます。彼らにも

大きな影響を与えていらっしゃると思いますが、どう思われていますか？

高橋 描き始めた時には、まさか世界にまでこの作品が広がっていくとは思っていませんでした。一流の選手たちが、翼のチームを実在のチームのように話してくれているのを聞くこともあります。この作品の中で描かせてもらった僕のサッカー観が、まさにサッカーの本場であるヨーロッパでも受け入れられたというのは、うれしいですね。

——現在、高橋さんは芸能人女子フットサルチームの「南葛シューターズ」の監督をしていらっしゃいます。実際の監督としての活動はいかがですか？

高橋 監督をしてみると、作中での監督のキャラクターになりきってしまうところがありますね。チームにどうやってアドバイスをしていこうか……とか、監督目線の台詞を言っています。作品を描いている時はむしろ選手の視点になることが多いので、違う視点でサッカーを見られて面白いです。

——漫画や小説を次々と発表されていますが、お仕事中に気分転換をしたいときは、どんなことをされますか？

高橋 ジョギングに出かけることもあります。近所をぐるっと回ってくるんです。近所には僕の出身校の南葛飾高校があるんですが、そこは翼のチーム「南葛」の名前をもらった学校でもありますから、ストーリーを考えながら走ったり、歩いたり……。あと、この辺りは、中川、荒川、江戸川という3つの川が流れています。川が流れる風景というのは、見るだけでも気分がスッキリしてきます。水元公園もきれいで落ち着く場所です。

——これから、高橋さんご自身が挑戦したいと思っていることはありますか？

高橋 葛飾区にJリーグのチームを作りたいな……と。そしてその隣に「翼博物館」を作って、サッカー文化の発信基地にすることが夢ですね。サッカーをしたい若者たちが集まる町になるといいな。

——来春から葛飾に通ってくる理科大学生に一言

高橋 葛飾は気取らないのが魅力です。地方から東京に出てこられる学生さんにとっては、都心では少し肩がこるかもしれないけれど、葛飾ならば気楽に過ごせると思います。おしゃれに気を使わずに、ジャージでも歩けるのがいいところ。B級グル

日本サッカーの人気を牽引してきた『キャプテン翼』とは？

サッカーが大好きな少年、大空翼の成長と活躍を描く物語。1981年から『週刊少年ジャンプ』に掲載され、小学生の翼が仲間とともに成長していく姿が描かれている。シリーズは、「ワールドユース編」「ROAD TO 2002」「GOLDEN-23」「海外激闘編 EN LA LIGA」と2011年まで続き、主人公の翼はサッカー日本代表として、そしてスペインのバルセロナで活躍している。



©高橋陽一／集英社

『キャプテン翼』の作品は、小学生から20代に翼が成長するまで、さまざまなシリーズでファンに30年以上愛されてきた。

メの美味しい店もたくさんありますよ。また、葛飾は都心に比べて、川や土手があり、東京とは思えないような、自然にあふれた風景が広がっています。下町の人は優しく親しみやすいので、交流を楽しみながら、ぜひ楽しいキャンパスライフを送ってください。

Yoichi Takahashi

高橋陽一（たかはし・よういち）

1960年、東京都生まれ。1980年、週刊少年ジャンプで『キャプテン翼』の読み切りでデビュー。1981年に『キャプテン翼』を連載開始し、全国の子どもたちにサッカーブームを巻き起こした。アニメは世界各国で放送され、ヨーロッパで活躍する著名選手にもファンが多い。



Event

東京理科大学で開催されたイベントのニュースをお伝えします

真夏のマドンナ開催 67人が参加

中高生にサイエンスの魅力を体験的に知ってもらう「科学のマドンナ」プロジェクトの一環として、真夏のマドンナ「長万部サマースクール2012」が、8月6日(月)から8日(水)に長万部キャンパスで行われました。

今回で6回目となるイベントでは、全国から総勢67人(女子47人、男子20人)の高校生が参加しました。さまざまな実験が行われ、実験「振動反応」では、白衣と実験用眼鏡を着用し、本学学生の指導のもと反応をくりかえし液体の色が変わっていく様子を観察しました。さらに、模擬授業や、現役大学生、大学院生、社会人によるショートプレゼンテ

ーション、ポスターセッションが行われ、研究内容や仕事内容などについて直接話を聞く場が設けられました。



子どもたちに科学の楽しさを伝えるサイエンスフェスタin福岡を開催

8月26日(日)にエルガーホール(福岡市中央区)で、本学と立命館大学の共同で子どもたちに理科の面白さを伝えるイベント「サイエンスフェスタin福岡」が開催され、小・中学生や保護者など約640人の参加がありました。

4回目を迎える今回は、バーチャルリアリティのカヌー体験や液体窒素の実験など両大学合わせて7ブースが出展し、学生たちが講師を務めました。その他にも100円ショップで購入可能な材料で行う手軽な実験などを開催。参加した小中学生からは「家ではできない実験ができて楽しかった」

などのコメントが寄せられました。

また当日の様子は、地元のテレビや新聞等でも紹介され、イベントの盛況ぶりや本学の科学啓発活動の取り組みなどが紹介されました。



バーチャルリアリティのカヌー体験

第35回鳥人間コンテスト(滑空機部門)出場

本学I部同好会(神楽坂)「東京理科大学鳥人間サークル-鳥科」が、7月28日(土)、29日(日)に滋賀県彦根市琵琶湖東岸で開催された、読売テレビ主催「第35回鳥人間コンテスト選手権大会」滑空機部門に出場し、飛行距離258.35m、20チーム中6位という過去最高の結果を残しました。

当日は、滑空機部門の1番機という大役で、メンバーからは緊張の表情もうかがえましたが、快晴という最高のコンディションで本番に臨むことができました。今回で2回目のフライトとなるパイロットの伊東裕司さん(理一・物理・4年)は「素晴らしい記録を出すことができてよかった」と喜びを語ってくれました。

今年の経験を生かし、来年度以降のさらなる記録更新が期待されます。



葛飾納涼花火大会で協賛花火を打ち上げ

7月24日(火)、葛飾区の江戸川河川敷で行われた「第46回葛飾納涼花火大会」で、本学の協賛花火が打ち上げられました。これは葛飾キャンパス開設の前年度であることを記念に行われたもので、本学のイメージキャラクターである坊っちゃんやマドンナちゃんをかたどった花火や、本学のロゴマークのカラーである緑を基調とした花火などが約5分間にわたって葛飾区の夜空を彩りました。会場では坊っちゃん、マドンナちゃんが特製のうちわやばんそうこうを来場者に配布して、葛飾キャンパス開設を区民の方々にアピールしました。

また、打ち上げの際には藤嶋昭学長から新キャンパス開設に際しての意気込みが語られ、藤嶋学長、坊っちゃん、マドンナちゃんの3人が手を合わせて打ち上げスイッチを押すと、来場した約58万人の方々からは大きな歓声があがりました。



打ち上げスイッチを押す藤嶋学長(中央)

山口東京理科大学ニュース

第10回全日本学生フォーミュラ大会観戦レポート

山口東京理科大学学生フォーミュラチーム(TUSY Formula)が第10回全日本学生フォーミュラ大会に出場し、初出場ながら健闘しました。

同大会は、学生の自主的なものづくりの総合能力を養成し、将来の自動車産業を担う人材を育成するための公益活動として、2003年にスタート。審査種目は、①車検、②静的審査(コスト、デザイン、プレゼンテーション)、③動的審査(アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、エンデュランス、燃費)で構成され、学生が企画・設計・製作した小型レーシングカーを車の走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コスト審査などで評価し、ものづくりの総合力を競うものです。

静岡県の小笠山総合運動公園で9月3日(月)～9月7日(金)の5日間にわたって行われました。

審査種目の静的審査のコストと設計では、初年度にもかかわらず堂々とした発表を行い、プレゼンテーションでは発表内容の完成度の高さを評価されて、見事上位15位を獲得しました。しかし、審査種目の車検(技術検査、チルト、ブレーキ、騒音)のクリアが大きな壁となり、動的審査のうち、アクセラレーションとスキッドパッドは間に合いませんでした。車検の審査を

全てクリアしたのはオートクロスの競技時間終了10分前、ギリギリで滑り込み、何とか動的審査にこぎつけました。

オートクロスのタイムで出場順の決まるエンデュランスは残念ながら時間制限により走行ができませんでした。

チームリーダー兼ドライバーの溝上貴啓さん(工学部・機械工学科4年)は「チーム全員が一丸となってここまですることができました」とメンバーに感謝の気持ちを伝え、全員で来年の更なる飛躍を誓いました。全ての競技を終了し、最終結果は以下のとおりです。



静的審査

- ・コスト……………44位
- ・デザイン……………45位
- ・プレゼンテーション……15位

動的審査

- ・アクセラレーション……未走行のため記録なし
- ・スキッドパッド…………未走行のため記録なし
- ・オートクロス……………52位
- ・エンデュランス…………未走行のため記録なし

総合成績

- ・82チーム中52位

車検担当の各審査員からは「初出場とは考えられないレベルの高さ」と賞賛の声と多くのアドバイスをいただきました。また、東京理科大学学生フォーミュラチーム(TUS Formula Racing)は安定した力を発揮し、総合成績は17位でした。



第3回山陽小野田市かがく博覧会に3,900人が来場

9月22日(土)、23日(日)の2日間、第3回山陽小野田市「かがく博覧会」が、おのだサンパークで開催され、市内外から親子連れの小中学生を中心に過去最多の約3,900人の来場者があり、大いににぎわいました。

この博覧会は、本学と山陽小野田市が共同で開催しているもので、市内の小学校、中学校、高等学校、大学が一堂に会し、各学校から科学の作品や実験ブースなどを出展。子どもから大人まで、科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を体験できる催しが多数用意されました。

また、今年から市内の複数の企業も参加し、ブース企画がスケールアップしました。

1階の屋外広場では、学生フォーミュラチームが製作した小型レーシングカーの展示や研究室で開発したロボット体験コーナーを設置。この博覧会の目玉の企画で、子どもたちがとても楽しそうにレーシングカーに乗車したり、ウナギ型ロボットなどを操縦していました。

このほか、2階本会場の大学のブースでは、子どもたちが夢中になって科学実験に挑戦したり、太陽電池を作成するなど、場内は終始、歓声や笑い声が響きわたりました。



ホームカミングデー開催のご案内

テーマ：思い出のキャンパスで…

開催日時：11月25日(日) 10:20～14:30

会場：山口東京理科大学 5号館

山口東京理科大学ホームカミングデーは、2008年から隔年で開催し、今回で3回目となります。同窓、教職員、学生、地域の皆さまに、ご家族と一緒にご参加いただき、親睦、交流を深める集いにしたいと考えています。秋山仁教授(東京理科大学総合研究機構 理数教育研究センター長)による記念講演のほか、サイエンスフェスタ等の楽しいイベントも企画しております。また、ホームカミングデー当日は、竜王祭(学園祭)も開催しています。

多数の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

保証人懇談会を開催します

開催日時：11月24日(土) 12:00～17:00

会場：山口東京理科大学 5号館

- 12:00～13:00 受付
- 13:00～13:20 開会挨拶、大学現状報告
- 13:20～13:50 大学生活の報告
- 13:50～14:00 質疑・応答
- 14:00～17:00 個別面談(希望者のみ)

※当日は、竜王祭(学園祭)も開催し、さまざまな企画を用意しておりますのでお楽しみください。

維持拡充資金(第二期) 寄付者芳名

「維持拡充資金(第二期)」にご賛同いただき、ご寄付をたまわった方々のご芳名を掲載します。今回は、2012年5月1日～7月31日までにご入金いただいた分です。ご芳名は区分別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきました。累計は維持拡充資金(第二期)の寄付額です。

【個人】 (同窓生) ◇金5,000,000円 森野 義男 様 (累計金49,500,000円) ◇金400,000円 吉田 育子 様 ◇金300,000円 山田 義幸 様 (累計金900,000円) 吉野 篤 様 (累計金800,000円) ◇金200,000円 丹羽 誠司 様 (累計金400,000円) 溝部 道信 様 (累計金550,000円) 匿名 1名 ◇金150,000円 赤石 庄平 様 (累計金350,000円) 今村 肇 様 (累計金350,000円) ◇金125,000円 小野 具彦 様 ◇金100,000円 五十嵐 賢 様 (累計金150,000円) 石神 一郎 様 (累計金800,000円) 稲葉 和正 様 加賀谷 秀樹 様 梶原 巡 様 (累計金150,000円) 近藤 日出子 様 杉田 七三郎 様 辻 誠滋 様 寺脇 康文 様 (累計金300,000円) 中谷 静香 様 中村 慶雄 様 林 彰 様 牧野 正博 様 松戸 徹 様 匿名 2名 ◇金50,000円 板本 真治 様 (累計金90,000円) 一ノ瀬 好弘 様	大野 十司夫 様 (累計金60,000円) 角谷 匡規 様 (累計金60,000円) 木村 豊 様 黒田 和雄 様 桑田 洋一 様 (累計金110,000円) 小島 保彦 様 小嶋 美行 様 小林 昭一郎 様 (累計金110,000円) 田島 英幸 様 (累計金70,000円) 田代 寛 様 (累計金100,000円) 土田 晃幹 様 服部 孝 様 樋川 和伸 様 守屋 茂 様 (累計金330,000円) 横手 治江 様 秋山 秀二 様 (累計金100,000円) 若杉 浩榮 様 匿名 2名 ◇金100,000円 石川 万寿雄 様 (累計金90,000円) 板山 三郎 様 (累計金50,000円) 海野 格 様 (累計金80,000円) 大竹 一義 様 大竹 俊夫 様 (累計金60,000円) 佐藤 伸男 様 座間 美和 様 篠塚 進一 様 杉田 政久 様 (累計金50,000円) 鈴木 行生 様 (累計金90,000円) 塚越 康吉 様 原 壯太 様 前澤 浩 様 (累計金130,000円) 増永 将二 様 (累計金40,000円) 升谷 長治 様	吉田 益男 様 匿名 1名 ◇金20,000円 江口 昌利 様 (累計金30,000円) 草川 英昭 様 黒澤 宏幸 様 高橋 治六 様 (累計金40,000円) 月井 武雄 様 (累計金30,000円) 辻 文雄 様 (累計金40,000円) 戸上 恵央 様 (累計金30,000円) 西村 弥一 様 望月 建治 様 森山 聡 様 (累計金30,000円) 匿名 1名 ◇金10,000円 赤沼 茂樹 様 秋山 秀二 様 (累計金20,000円) 跡部 尚之 様 (累計金30,000円) 新井 和雄 様 飯田 広和 様 (累計金20,000円) 一條 由佳 様 岩岡 正視 様 (累計金20,000円) 岩波 康史 様 (累計金20,000円) 歌津 善久 様 海野 安彦 様 蝦名 由紀江 様 (累計金30,000円) 太田 山平 様 大西 勲 様 (累計金20,000円) 大橋 英夫 様 大平 勝 様 岡田 一成 様 (累計金50,000円) 鬼久保 正治 様 笠原 覚 様 櫻崎 允彦 様 (累計金20,000円)	角出 光一 様 金子 妙子 様 上村 陽一郎 様 神谷 茂 様 (累計金20,000円) 川手 鮎子 様 (累計金20,000円) 菊池 郭元 様 (累計金40,000円) 菊池 理恵子 様 城戸 博 様 小嶋 延吉 様 小平 勇次 様 (累計金30,000円) 小林 英登 様 (累計金20,000円) 小林 康英 様 (累計金20,000円) 近藤 英世 様 (累計金20,000円) 齋藤 敦夫 様 (累計金20,000円) 齋藤 純 様 坂田 康雄 様 (累計金30,000円) 坂本 孝司 様 (累計金20,000円) 坂元 玲士 様 笹原 俊男 様 (累計金20,000円) 佐治 尚史 様 佐藤 金司 様 (累計金50,000円) 佐藤 信二 様 佐藤 澄江 様 (累計金20,000円) 佐藤 弘幸 様 (累計金20,000円) 佐藤 恭 様 佐藤 好英 様 (累計金20,000円) 猿谷 亮司 様 塩田 博 様 (累計金50,000円) 穴戸 好蔵 様 末岡 善樹 様 (累計金30,000円) 田口 貴栄 様	田口 裕箕 様 田中 輝昭 様 棚橋 誠 様 (累計金20,000円) 知名 秀泰 様 露崎 勝悟 様 (累計金30,000円) 寺西 功一 様 友塚 春樹 様 豊澤 捷子 様 仲野 利昭 様 (累計金20,000円) 西尾 宇一郎 様 西澤 和夫 様 根岸 保 様 (累計金20,000円) 長谷川 利夫 様 浜田 正敏 様 林 茂 様 (累計金40,000円) 平井 優 様 (累計金20,000円) 平山 豊 様 (累計金30,000円) 廣田 正義 様 本田 忠信 様 松浦 勝次郎 様 松田 亀松 様 馬奈木 敬宏 様 三井田 達雄 様 (累計金20,000円) 三上 敦 様 宮宅 勇二 様 (累計金30,000円) 宮田 和博 様 (累計金20,000円) 森川 和哉 様 (累計金30,000円) 森下 誠次 様 (累計金30,000円) 森元 富彦 様 (累計金20,000円) 安本 裕 様 矢田 章人 様 矢野 裕之 様 (累計金50,000円) 山内 忍 様 (累計金20,000円)	山西 一徳 様 (累計金20,000円) 山本 睦 様 興喜 秀則 様 (累計金20,000円) 吉川 悟 様 吉村 覚 様 与那原 邦夫 様 (累計金80,000円) 若林 真砂江 様 (累計金30,000円) 脇原 将孝 様 和田 英明 様 (累計金15,000円) 匿名 10名 ◇金5,000円 青山 哲也 様 (累計金20,000円) 上原 敏生 様 (累計金3,200,000円) 檀田 正仁 様 (累計金7,000円) 近藤 明良 様 鈴木 敬 様 中村 實 様 (累計金25,000円) 古橋 一男 様 (累計金35,000円) 渡辺 優 様 渡邊 雄介 様 ◇金3,000円 井口 直 様 (累計金5,000円) 小林 博 様 立川 博章 様 友澤 敬一 様 ◇金2,000円 酒井 薫 様 (累計金4,000円) 鈴木 篤人 様 堀 真治 様 (累計金5,000円)	◇金1,000円 柳 哉 様 (父母保証人) ◇金50,000円 坪井 堅二 様 (在校生) ◇金20,000円 柳楽 勝 様 (累計金80,000円) (教職員) ◇金950,000円 藤嶋 昭 様 (累計金5,050,000円) ◇金900,000円 澤 芳昭 様 (累計金3,200,000円) ◇金600,000円 塚本 恒世 様 (累計金3,600,000円) ◇金500,000円 秋本 和憲 様 中根 滋 様 渡辺 恒夫 様 (累計金2,300,000円) ◇金400,000円 村田 雄司 様 (累計金1,900,000円) ◇金300,000円 池北 雅彦 様 (累計金700,000円) 坂本 功 様 (累計金900,000円) 佐藤 毅 様 (累計金750,000円) 高柳 英明 様 直井 英雄 様 (累計金1,000,000円)	幡野 純 様 (累計金800,000円) 吉本 成香 様 (累計金1,400,000円) ◇金200,000円 大島 広行 様 (累計金300,000円) 河村 洋 様 (累計金1,700,000円) ◇金100,000円 王谷 洋平 様 大矢 雅則 様 (累計金200,000円) 小久保 正己 様 (累計金300,000円) 菅原 秀章 様 (累計金600,000円) 並河 一道 様 (累計金400,000円) 東邦 仁虎 様 (累計金300,000円) 藤野 仁三 様 (累計金550,000円) 三土 修平 様 (累計金200,000円) ◇金70,000円 匿名 1名 ◇金50,000円 加納 誠 様 坂本 正典 様 (累計金100,000円) 高 久晴 様 (累計金350,000円) 長澤 壽一 様 (累計金70,000円) 早川 あけみ 様 匿名 2名 ◇金40,000円 匿名 1名 ◇金30,000円	須田 亮 様 (累計金90,000円) 多田 孝次 様 (累計金40,000円) 匿名 1名 ◇金25,000円 加賀谷 貞夫 様 (累計金150,000円) ◇金20,000円 宇津 栄三 様 (累計金810,000円) ◇金15,000円 原 泰志 様 (累計金130,000円) ◇金10,000円 大木 達也 様 (累計金50,000円) 田中 芳夫 様 (累計金110,000円) 牧 高司 様 (累計金50,000円) 匿名 3名 ◇金5,000円 匿名 1名 ◇金2,000円 ブレイマチャンドラ チンタカ 様 【法人】 ◇金10,000,000円 田中産業株式会社 様 (累計金20,000,000円) 【こうよう会】 ◇金20,000,000円 被災学生への支援 ◇金23,944,000円 個人 532名 (累計金135,665,695円)
--	---	---	--	---	--	---	---	--

●入金額(2012年5月1日～2012年7月31日)
【個人】19,836,000円(242名) 【法人】10,000,000円(1社)
【こうよう会】43,944,000円(533件)
●2012年度 寄付総額(2012年4月1日～2012年7月31日)
【個人】25,036,000円 【法人】10,000,000円 【団体】330,467円
【こうよう会】43,994,000円

問い合わせ先
**東京理科大学
募金事業事務局**
(TEL) 03-5228-8723
(FAX) 03-3260-4363
(e-mail) bokinjigy@admin.tus.ac.jp

諏訪東京理科大学ニュース

サイエンスフェスタ開催

日本の未来を支え、子どもたちに科学の面白さを体験してもらう「サイエンスフェスタ2012 inちの」を7月15日(日)に茅野市民館で開催しました。これはシステム工学部電子システム工学科田邊研究室が、産学官の協力を得て行ったもので、当日は約600人の親子連れが参加。長い順番待ちができるなど大変盛況でした。

会場では諏訪東京理科大学のアクションプランを用いて企画した、田邊研と東海大学付属第三高等学校科学部が協力して実施した科学ショーや、光で絵や文字を描くバーサイタイなどの電子工作のほか、地元中学校科学部や茅野市企業を含め、10ブースが展開されました。

保護者の方からは「日ごろ“どうして?”と子どもから聞かれても答えられないことが多々あるが、学生に一对一で教えてもらえて安心した」との感想が寄せられました。学生代表の片貝悠さんは「私たちの企画に産学官から賛同をいただき、世代を超えた交流が図れて感無量です」と笑顔を見せていました。



実験や工作を通じて親子で科学に夢中

サイエンス夢合宿を開催

7月28日(土)・29日(日)の1泊2日の日程で、生涯学習センター公開講座「サイエンス夢合宿」を開催しました。長野県内各地から小学校5、6年生とその保護者74人が参加し、本



サイエンス夢合宿の参加者たち

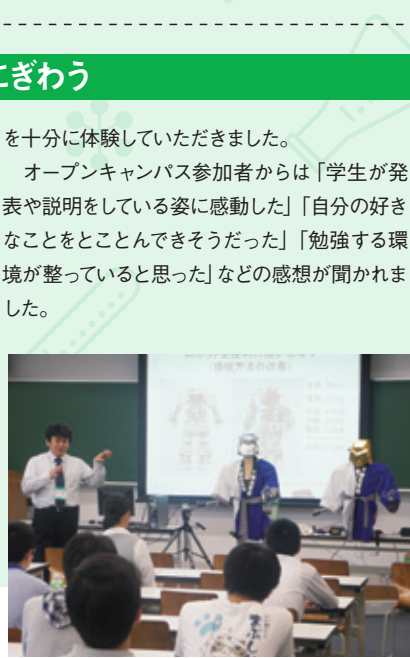
オープンキャンパス・スペシャルにぎわう

7月22日(日)と8月5日(日)にオープンキャンパス・スペシャルが開催されました。400人の参加者を集め、各回ともにとてもにぎわいました。

特集企画の「学生トークセッション」では、就職内定者が厳しい就職活動に挑んだ様子や、これまでの大学生活について壇上で熱く語り、「総合演習優秀グループ発表」では、本学の学びの特色である「工学と経営学の融合教育」の集大成である「総合演習」で最優秀賞に輝いたグループの学生が発表を行いました。在学生たちの熱いトークや発表に参加者たちは興味深く聞き入っていました。

その他、学食無料体験、各学科の模擬授業・体験講座、キャンパス見学ツアー、各種入試対策講座などさまざまなイベントが行われ、本学

学の教員や学生とともに親子でサイエンスの体験学習に取り組みました。今回で11回目の開催となりますが、中には「兄弟全員が順番に参加し、今年で4回目です」という保護者の方もいらっしゃいました。1日目の「体験コース」、2日目の「ものづくりコース」での体験学習に加え、自然写真家・西村豊先生の特別講演会、花火会、大学探検、セミナーハウスでの宿泊などさまざまなイベントを体験する中で、最初は緊張気味だった子どもたちもすっかり仲良くなり、「楽しかった」「来年も絶対参加したい!」という感想も多く聞かれました。また来年、たくさんの笑顔と出会うことを楽しみにしています。



学生トークセッションの様子

夏山・白樺湖自然交流

7月14日(土)に学園生活応援団主催の「夏山・白樺湖自然交流」が行われました。学園生活応援団は学生部と学生で組織する団体で、今まで「ボウリング大会」や「スキー・スノーボード教室」を企画してきました。

今回は大学の発行する通学バスパスポートの乗車可能区間が白樺湖、車山、霧ヶ峰方面まで拡大したことにより新たに企画されました。

学生はバスで白樺湖に移動し、ホープロッジ乗馬牧場で昼食を食べた後、乗馬を体験する者、白樺湖周辺を散歩する者など、さわやかな高原の空気の中、思い思いの時間を過ごしました。





天文観測に夢中だった学生時代が、今の自分を作った 唐澤範行さん (アサヒフードアンドヘルスケア株式会社 代表取締役社長)

アサヒビールに入社したきっかけ？
実は「皆既日食」が関係しているんです



唐澤範行 (からさわ・のりゆき)

1974年、東京理科大学工学部機械工学科卒業。同年4月アサヒビール株式会社入社。アサヒビール技術部長、アサヒビールエンジニアリング代表取締役社長、アサヒビール生産技術部長、常務取締役兼常務執行役員、アサヒフードアンドヘルスケア株式会社代表取締役副社長を経て2012年3月、代表取締役社長に就任。アサヒビール時代の86年から93年にかけて「スーパードライ」発売時期の生産設備建設とエンジニアリングを担当。その後中国、チェコ、タイ等の海外ビール生産を担当。

清 涼菓子「ミンティア」などで知られるアサヒフードアンドヘルスケア株式会社。その代表取締役社長を務めるのが本学OBの唐澤範行さんだ。学生時代は工学部機械工学科で流体力学を研究する傍ら、天文研究部 (以下、天文研) に所属し、観測に熱中していたと語る。

「当時は野田キャンパスに観測所があって、神楽坂での授業が終わると、白衣を着たまま電車に乗って野田へ行き、夜通し観測して神楽坂に戻ってくるという毎日でした。野田キャンパスも1号館から3号館ぐらいしか建物がなかったころですから、天体観測には適した環境でしたね」

天文研の活動の中でも特に思い出深いのが、1973年の日食観測ツアーだという。

「私が4年生の時に、アフリカのケニアで皆既日食があったんです。注目度が高く、日本のマスコミも“20世紀最大の黒い太陽”として大きく報道するほどでした。理科大からは30人がケニアに3週間ほど遠征しました」

卒業後は、アサヒビール株式会社に入社。一貫して生産技術関連の仕事に携わってきた。実は、入社にあたってのいきさつには、天文研の活動も少なからず関係しているとか。

「就職先の候補としてプラントメーカーなど数社を考えていて、アサヒビールもそのうちの1社でした。当時は就職活動の解禁日が7月1日だったのですが、実はケニアでの日食観測ツアーに参加したために、7月初めに試験が行われる会社は受験できなかったんです(笑)」

当時アサヒビールは業界シェア3位と低迷していたが、87年には、日本初の辛口生ビール「アサヒスーパードライ」を発売。ビール業界に革命を起こすヒット商品となる。

「86年のCI (コーポレート・アイデンティティ) 導入を契機に、アサヒではビールの味を一新。大規模な増産体制をとることとなりました。私は福島工場の増設を担当するメンバーで、最初のミッションは『年間3万6000キロリットルの生産量を7



大学時代、天文研究部の仲間と。(一番左が唐澤さん)

万2000キロリットルにする』というものでした。ところが、新プラント落成祝いの日に18万キロリットルへの増産を命じられ……文字通り“倍々ゲーム”で生産量が増えていった時期ですね。ひたすら仕事をする日々でした。時には仕事が終わった後にナイタースキーを楽しむこともありましたが、ゆっくり星を眺める暇はありませんでしたね」

現在は経営者として学生を受け入れる立場の唐澤さん。理科大の学生たちにメッセージをお願いすると、こんな答えが返ってきた。

「自分の専門分野以外に、寝食を忘れて没頭できるものを持ってほしい。知識や興味には“広さ”と“深さ”の両方が必要です。理科系の学生は、専門分野の知識を深めることは得意ですが、広げることが不得手な人が多いと感じます。部活動やサークル活動でタテの人間関係を築くことで、知識や興味を広げてほしいと思いますね」

教員免許状更新講習を開催

7月25日(水)から8月3日(金)まで、教職支援センター主催の教員免許状更新講習が神楽坂キャンパスで開催されました。

同講習は、教育職員免許法の改正に伴い、平成21年度から導入され、教員として必要な資質能力が保持されるよう、最新の知識技能の習得を目的とするものであり、免許状の有効期間満了日の2カ月前までに、30時間以上の講習を修了する必要があります。

本学では、必修領域の「学校教育における今日的課題」、選択領域の「数学教育リフレッシュ講座」、「理工系キャリアを目指す高校生のためのロボコンを体験する講座」、「理科授業の達人への道」等の10講習が開設され、延べ527人が受講しました。

本学の講習では、最新の知識技能の習得だけでなく、本学の教職課程の特長でもある高度な専門教育を基盤とした教科に関する専門知識、学校現場で通用する授業実践力、多様な問題に対応できる生徒指導力、教師としての職業モラルと職務遂行能力等を向上させるプログラムが組まれています。

「理科授業の達人への道 (中学校理科・小学校理科専科)」の中で行った物理、化学、生物、地学、環境分野の身近なものをを使った実験は、普段の授業のアイデアにつながる」と好評でした。



東京理科大学 ホームカミングデー 2012を開催します

10月28日(日)、本学の同窓会・教職員・こうよう会員・学生が家族を含めてご参加いただけるふれあいイベント「ホームカミングデー 2012」を神楽坂キャンパスで開催します。

記念講演会

著名な3人の先生方による、バラエティーに富んだ記念講演会を開催します。
会場：1号館17階 記念講堂 (大会議室)

武見敬三氏

(公財)日本国際交流センター
シニア・フェロー
東海大学政治経済学部教授



講演テーマ

「高齢先進国日本の役割：健康長寿社会の経験」
講演時間／11：30～12：30

馬場鎌成氏

科学ジャーナリスト



講演テーマ

「時代認識とは何か～激動するIT産業革命～」
講演時間／13：30～14：30

秋山仁氏

東京理科大学総合教育機構
理数教育研究センター長
数学者



講演テーマ

「草莽の志を貫かん」
講演時間／15：30～16：30

教育スペシャル

全国1,700校の高校生を対象に募集した論文から最優秀賞を決める「第4回坊っちゃん科学賞」や、中学・高等学校等で優れた授業を実践した数学科の教員を顕彰する式典、「第5回数学・授業の達人授賞式」を行います。

第4回
坊っちゃん科学賞

実施時間／
10：00～13：00
会場／2号館



第5回
数学・授業の達人

実施時間／
13：30～18：00
会場／2号館



その他のイベント

ギネス世界記録を持つ理科大OBのギタリスト加茂フミヨシさんのライブや、落語家、桂歌助師匠と、本学落語研究会のメンバーが出演する「お笑い演芸会」、その他OB・OGと現役学生によって開催される「ふれあいライブステージ」など、さまざまな楽しいイベントが盛りだくさん。どなたでも無料で参加できますので、ぜひお気軽にお越しください。



キッズ・プログラム

見て聞いて、実際に体験することで科学への興味を深められるコーナーです。実験・工作を通じて身近な科学を親子で楽しめる「サイエンス夢工房」や、大人から子どもまで楽しめる「キッズ・サイエンス・ライブショー」などが開催されます。

サイエンス夢工房

実施時間／
11：00～16：30
会場／3号館



キッズ・サイエンス・ライブショー

実施時間／
10：00～16：30
会場／2号館



開催日時／2012年10月28日(日)
10:00～17:00

場所／東京理科大学
神楽坂キャンパス

イベント詳細はホームページへ
<http://www.risokai-hcd.jp/>

問い合わせ先／理窓会事務局
TEL 03-3260-0725
E-mail：risokai@admin.tus.ac.jp

プログラムおよび実施内容は変更される場合がございます。雨天決行。荒天の場合は、コーナーの実施会場が変更になる場合もございます。

イベントのお知らせ

みんなの理科大学 今年も開催 東京理科大学×葛飾区

日時：12月1日(土)、2日(日)
10:00～16:00(予定)
場所：テクノプラザかつしか
(最寄駅：京成電鉄 青砥駅)

開催内容：実験ブース、講演会、
公開講座、進学相談会、
学部学科紹介

2012年理大祭 日程

〈神楽坂地区〉
11月23日(金)～25日(日)

〈野田地区〉
11月23日(金)～25日(日)

〈久喜地区〉
11月3日(土)、4日(土)

近代科学資料館 企画展

●会期・時間…… 10月26日(金)～12月13日(木)
10:00～16:00 *日曜・月曜 休館

●会場…………… 近代科学資料館 入館無料

●展示内容…………… 宇宙実験の歴史 (スプートニクからISSまで)、ISS実験、微小重力環境、物質の科学研究への無重力環境の利用

『「宇宙実験展」—日本実験棟「きぼう」で どんな実験がおこなわれているか—』

お詫び

本紙第186号に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

5面「Prize」
受賞一覧
(誤)
11行目 澁谷 健太
(正)
11行目 澁谷 健大

次号予告

●年頭の言葉
●理大祭2012開催報告
●ホームカミングデー
開催報告

発行所

東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学広報課
☎03-3260-4271
<http://www.tus.ac.jp/>